

(案)

資料No. 2

平成23年3月31日

加東市長 安田正義様

加東市行財政改革推進委員会  
委員長 新谷喜之

加東市行財政改革推進委員会のまちづくり提案について

加東市の第2次行財政改革の推進については本委員会の答申のとおりですが、委員会の審議において市の若手職員の活用や職員の士気が高揚するための組織運営などについて多くの意見がありましたので、下記のとおり「まちづくり提案」として取りまとめました。

については、提案の趣旨を尊重し、取り組んでいただきますようお願いいたします。

記

加東市行財政改革推進委員会のまちづくり提案（別紙のとおり）

## 加東市行財政改革推進委員会のまちづくり提案

今後のまちづくりにおいて、市の若手職員の意見を聴取し反映できる仕組みづくり、そして、職員の士気が高揚する組織運営が重要であると考えられますので、次のとおり取り組まれるよう提案します。

- 市の若手職員の意見を聴取し、反映できる仕組みづくりの前提として、若手職員の意見等を求めるという姿勢を明確に示すことが重要です。また、上司からの命令による受動的な業務遂行から、自ら考えより良い方策を見出す意識改革も必要です。
- 「住みよさランキング」で 31 位の実績など加東市の良さ・優位性を分析し、市民がランキングの住みよさを実感するとともに、更なるランクアップを目指すための調査・研究など、「夢のある仕事」を若手職員に任せることで、まちを良くしようという意識が醸成できると考えます。
- 兵庫教育大学があるまちの優位性を活かし、若手職員と大学の学部学生や大学院生との意見交換など交流の機会や合同研修の実施から、魅力あるまちづくりなどの提案に発展、制度化していくことが、人口減少社会への対策につながっていくと考えます。
- 市政懇談会の開催などにより幅広く市民の意見を取り入れるように取り組まれていますが、幹部職員が中心になっている現状から、若手職員などもその中に組み入れて、市民との懇談の機会を設けることは、有意義であると考えます。
- 同世代や世代間など様々な職員の組み合わせによる意見交換などの機会を設け、組織を活性化するとともに、職員相互の信頼関係を構築することから新しい発想や斬新なアイデアが生まれ、市民の満足度を向上させる施策展開に発展していくと考えます。
- 民間の事例なども取り入れた業務改善提案制度や改善委員会などの設置により、自らの業務を振り返る機会を設けることは、コスト削減だけでなく、様々な効果が期待できると考えます。
- 職員の士気の高揚には、職員個々が公務員としての高い意識を持つとともに、個々のがんばりが処遇などに反映される「成果主義」の導入を検討する必要があります。
- 組織の役割と役職ごとの権限と責任を明確にするとともに、組織の年度目標設定とその目標に基づいた職員個々の目標設定が重要で、かつ、これらを人事考課制度と連動させる必要があります。
- 行政経営を「絵に描いた餅」に終わらせてはなりません。市の組織が効率よく機能すれば、市民サービスにかかる費用がたとえ減少しても、市民の満足度は向上できると考えます。